

○ 気候変動に対応する農業技術シンポジウム事業

【令和元年度予算概算決定額 16（－）百万円】

<対策のポイント>

農業は温室効果ガス排出源である一方で、気候変動の影響を受けやすい産業であるため、農業生産と温室効果ガス排出削減を両立させる様々な技術に対して国民の理解を促進する必要があります。そのため、IPCC※総会が平成31年5月に我が国（京都）で開催される機会に合わせ、**国際シンポジウムを実施**します。

※ 気候変動に関する政府間パネル

<政策目標>

○気候変動の緩和・適応に貢献しうる農業技術に係る国内外の理解促進

<事業の内容>

<事業イメージ>

気候変動に対応する農業技術国際シンポジウム

- 農業と気候変動について分かりやすく伝え、啓発します。
- ・世界各国、IPCC等の専門家及び地方自治体等からの気候変動適応の事例紹介
- ・国内外の研究者による生産現場で導入可能な研究成果のプレゼンテーション
- ・農業者、研究者、民間企業及び海外招聘者等によるパネルディスカッション

農業と気候変動に関する技術現地ツアー

○海外の研究者等が現場を見学し、技術等の意見交換を行います。

- (例) ・魚のゆりかご水田
・有機物投入による作りと温室効果ガス削減に取り組んでいる農家等



適切な技術導入で、農業は気候変動への適応力を高め、生産性を向上させるとともに気候変動の緩和にも貢献することが可能

<対象者>

IPCCに出席する海外政府職員、研究者、ESG投資※やエコマーケットに関心がある企業、地方自治体、農家、消費者

※ 環境 (environment)、社会 (social)、企業統治 (governance) に配慮している企業を重視・選別して行う投資

IPCC第38回総会の様子 (於：横浜市)
(撮影：農林水産省)



<シンポジウム候補地：滋賀県>

- ・「環境こだわり農産物」の生産、生物多様性保全に効果の高い営農活動の推進。
- ・水田からの温室効果ガス排出削減のための長期中干し等温室効果ガス削減技術の普及。
- ・気候変動対応試験研究の実施、気候変動に対応した品種の改良。
例：温暖化対応米品種「みずかがみ」、茶園の窒素肥料削減



滋賀県で育成された
温暖化対応米品種「みずかがみ」
(全量環境こだわり栽培)

・県産農林水産物のブランド化・輸出：近江茶、近江牛、湖魚等

副次的効果として、日本の農林水産物の更なるイメージアップ

<事業の流れ>



【お問い合わせ先】 大臣官房政策課環境政策室 (03-3502-8056)